

1000人の会員をめざして

～石川県糖尿病協会3カ年計画

石川県糖尿病協会

会長 早戸 武志

1000人の会員をめざして

石川県協会 3カ年計画 (⇒平成32、2020年)

糖尿病協会の現在

①.会員数 600人 →1000人

人口1万人当り 5.14人 →8.55人

②.友の会患者会の状況 20 →40

会の新しい発展、再開や新しい会の誕生

③.全国からの提案

糖尿病協会も会員の増強など提案

糖尿病協会とは？

日本糖尿病協会は一人ひとりの入会です。

会員は、 ①「さかえ」誌が毎月届きます。

②知識を深め、交流する行事に参加できます。

③療養に役立つ「オリジナルグッズ」が紹介されます。

どなたでも入会できます。会費が必要です。

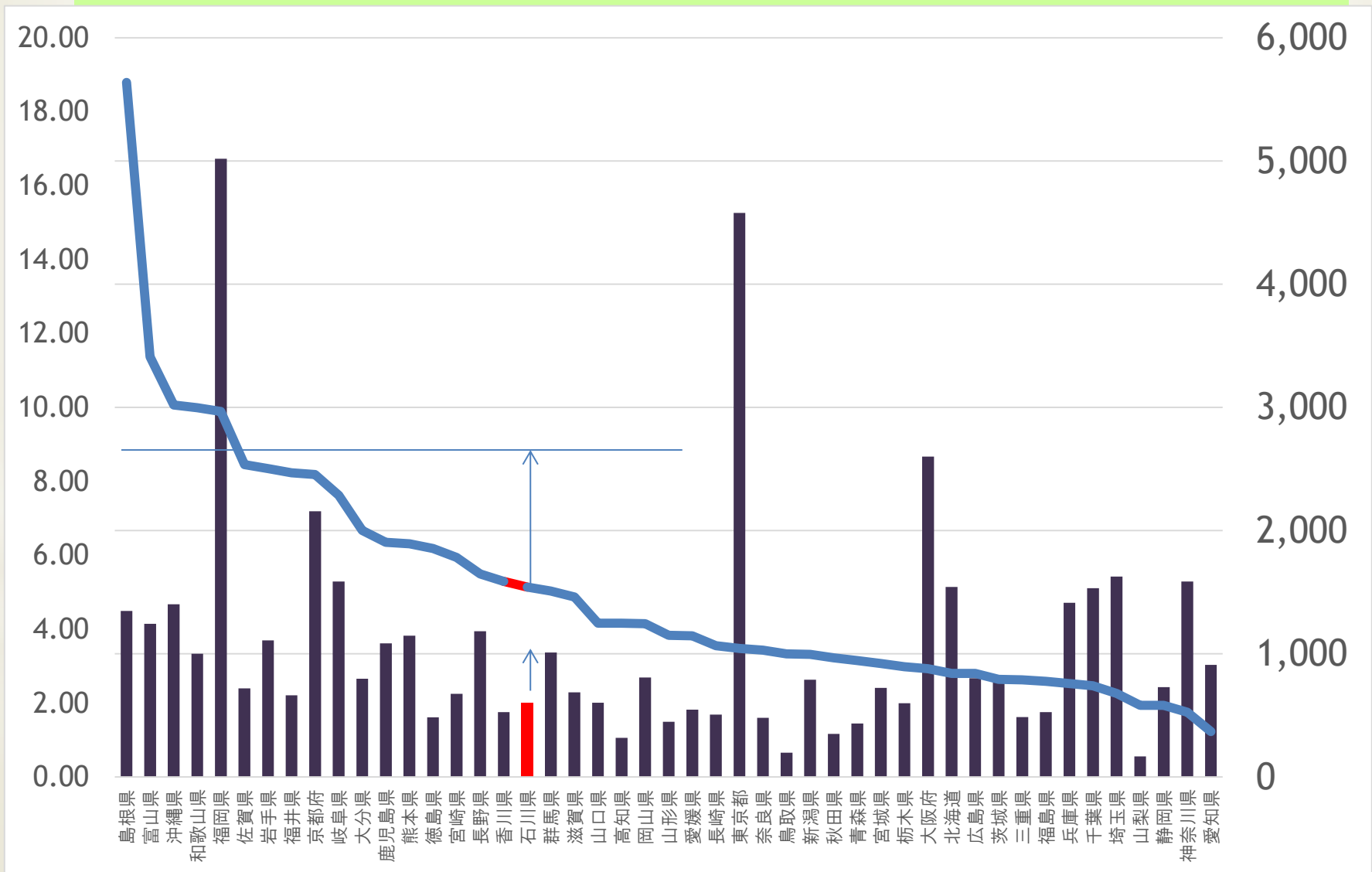
そして、各病院・医院ごとに、糖尿病患者やその家族、医師、看護師、栄養士などの医療スタッフで「友の会」を作っています。

本部会員であり、各友の会の会員です。

また、関連する行政や会社の方にも参加・協力を頂いています。

会員数を 600人 →1000人

人口1万人当り 5.14人 →8.55人



石川県には20の友の会

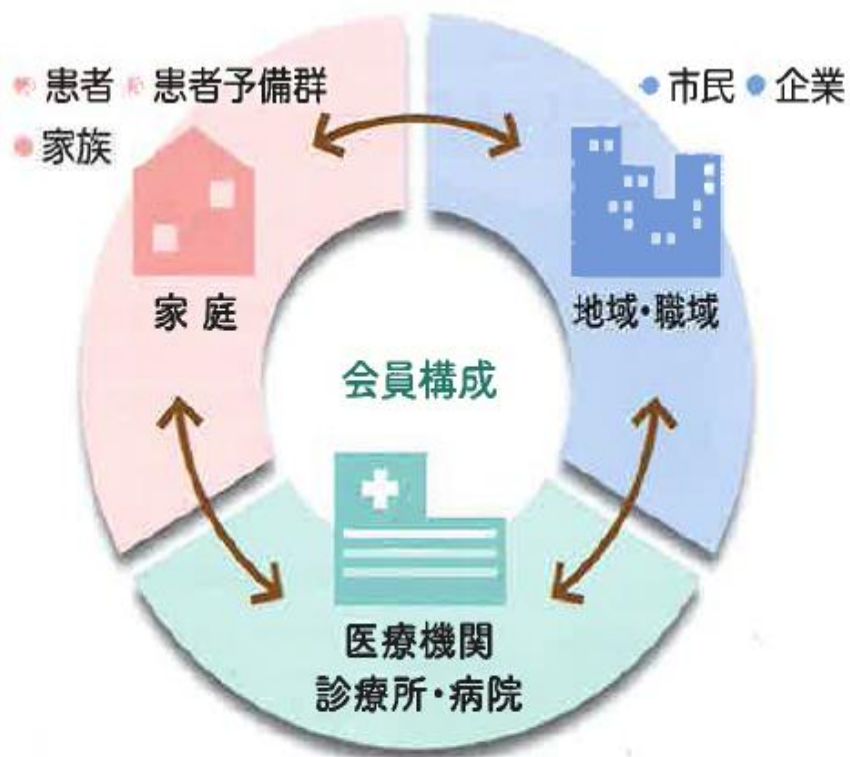


石川県市町村地図



日本糖尿病協の会員構成と組織

三位一体の会員構成と全国に広がるネットワーク



- 医師 ● 看護師 ● 管理栄養士 ● 栄養士 ● 薬剤師
- 理学療法士 ● 臨床検査技師 ● 糖尿病療養指導士

糖尿病協会組織



石川県糖尿病協会のめざしていること

➡会員を増やす

➡友の会・患者会を元気し、新しい会を作る

➡糖尿病患者と、より良い療養を送れるよう進める

(方法)

①現在の「会」で、会員を増やして活発にする。

②少人数・低迷しているところを大きくする。

③新たな施設、地域で「会」をつくる。会員を増やす。

(そのために)

○役員、先生・医療スタッフの協力、参加が必要

○役員の子世代交代の相談、協力をお願いする

○県内の対策協議会と相談して進めること

○役所や会社、関係団体との協力

が大事と考えています

友の会患者会の役割

ー1年目～50年の歴史の友の会まで それぞれの活動。



つばさの会

私たち「つばさの会」は、下記の通り1988年8月に第5回ヤングDMトップセミナーが開催される際に会沢にヤングの会結成
お願いをうけ、創設した会です。

年 月	出 来 事
1988年 8月	第5回ヤングDMトップセミナーが開催される際に会沢にヤングの会結成 年3回会報機関誌「つばさ」発行 行事は年4回 (春) バーベキュー懇話会と協会 (夏) サマーキャンプの応募 (秋) 新幹線ツアー (冬) クリスマスパーティー



友の会患者会の役割

— 1年目～50年の歴史の友の会まで それぞれの活動。

- ➡ 雑誌「さかえ」から継続して知識習得ができます
(記事、内容を一緒に学んだり、交流も)
- ➡ 友の会患者会の行事を通して 交流、学び考える
場が広がります
(体験・経験交流、アドバイス、食事や運動教室、
ホテルランチ、ヨガ体操、勉強会、ウォーキング
...など活動をまとめた石川県協会の冊子)
- ➡ 医療者やスタッフとの交流で、患者と医療者の関
係が良好になり治療の促進につながります。
(療養や新しい薬、治療について一緒に考える、行
事や懇談で交流)

友の会患者会の役割

友の会患者会の取り組みは、

- ・重症化、病気の合併予防に効果をもたらしている
- ・「情報化」の中で正しい知識、情報を普及できる
- ・医療費や医療費負担を減らすことができる

友の会患者会の取り組みは、

- ・治療だけでなく、生活や仕事、将来のこと、不安などの要望、要求を解決している
- ・新しい治療法、薬や検査、運動など適切な情報を学べる
- ・家族を含めて療養についての交流が励ましが与えている
- ・（患者、一般に）糖尿病に対する理解を広げている

友の会、石川県協会の活動強化

【課題】

28年度役員会の議論や、県内の9病院との訪問・懇談を通して

1. 患者が主体で友の会の発足は極めて困難であることとの理解不足。
2. 友の会の運営を一緒に進める人手が不足している。
3. 友の会の必要性について説明が不足している。現在、各病院での取組みで十分という意識が定着している。

平成28年度訪問、懇談した病院

市立輪島病院 公立羽咋病院 河北中央病院

金沢市立病院 浅ノ川総合病院 済生会金沢病院

公立つるぎ病院 公立松任石川中央病院 能美市立病院

友の会、石川県協会の活動強化、方向

【今後のこと】

1. 役員で県内の基幹病院への協力続ける
2. 県内9か所の協議会との積極的な連携強化を進める
3. 県（行政）、医師会関係者との更なる関係強化を進め、人的、財政的な協力をお願いする。友の会の拡大に繋げる。
4. 糖尿病週間等の各行事の参加者の増加を定着させる。